

「体罰根絶に向けた総合的な対策」部活動指導等の在り方検討委員会報告書(概要)

【別紙】

第1章 部活動の振興について P1~

- 1 部活動の教育的意義と位置付け
 - ・ 部活動は、思いやりの心や自主性・社会性を育むなど、極めて価値のある教育活動
- 2 スポーツの本来的意義
 - ・ スポーツは、すること自体が喜びや楽しさをもたらす活動
- 3 求められるスポーツ指導者像
 - ・ スポーツ指導者は、プレイヤーの立場に立ち、サポート
- 4 コンプライアンスと倫理規範
 - ・ 教員等は、体罰を行わないというコンプライアンス（法令遵守）を徹底
- 5 部活動からの体罰の一掃
 - ・ 生徒を体罰等の手法により育てるという考え方は誤っており、今後一掃

第2章 体罰について P7~

- 1 文部科学省の見解
 - ・ 体罰禁止の考え方、懲戒と体罰の区分について
 - ・ 体罰かどうかの判断、体罰等の参考事例
- 2 過去の判例から
 - ・ 戦後の体罰関係裁判のリーディングケースとなった代表的な判決から、体罰に対する司法の判断や考え方を確認
- 3 体罰の概念規定
- 4 体罰の影に隠れていた暴言や不適切な指導
 - ・ 暴言の例
 - ・ 不適切な指導の例
- 5 体罰関連行為ガイドライン

第3章 東京都の現状 P19~

- 1 体罰防止に向けたこれまでの取組
 - ・ 服務事故防止月間による都内全公立学校において啓発活動を実施
 - ・ 7月を体罰防止月間と位置付け、体罰防止に重点化
- 2 平成24年度体罰実態把握調査の結果
 - ・ 体罰を行った教員の約60%が一時的な感情によるもの
 - ・ 約40%が体罰を指導の手段とする誤った認識によるもの
- 3 体罰調査委員会による課題の整理と今後の方向性
 - ・ 指導者の意識改革、生徒や保護者への理解啓発の推進
 - ・ 組織的な指導体制の確立とマネジメント能力の育成
 - ・ コンプライアンス体制の整備、外部指導員制度の見直し

第4章 体罰はなぜ繰り返されるのか P25~

- 1 体罰発生メカニズム
 - ・ 一時的な「怒り」（感情・情動）発生に伴う衝動的・攻撃的行動モデル
 - ・ 体罰を指導の手段と位置付けている場合
- 2 体罰が繰り返される構造
 - ・ 教員自身の問題、児童・生徒自身の問題、学校文化や教員の意識の問題、体罰を容認する社会風土の問題
- 3 なぜ体罰を根絶しなければならないのか
 - ・ 体罰は、児童・生徒に屈辱感を与え、心を深く傷つける人権侵害行為
 - ・ 児童・生徒の自己肯定感を喪失させ、教員に対する恐怖心、不信感等を抱かせ、信頼関係を崩壊

第5章 体罰を根絶していくための総合的な対策 P32~

- 1 体罰防止に関する教員研修の徹底
- 2 体罰をチェックする機能の強化
- 3 体罰を容認する風土を刷新するための取組
- 4 体罰のない部活動の推進

体罰根絶に向けた教員研修会

「東京から Good Coach を発信しよう」
3月12日（火）・13日（水）
中学・高校教職員
約900人
東京都教育委員会委員（当時）
瀬古利彦 氏

師弟間の信頼関係を築き、情熱をもって根気強く信念を伝える。絶対に人を叩かない指導者になってほしい。

部活動指導等の在り方検討委員会

「選手のやる気を引き出す指導について」
4月18日（木）
第2回
検討委員会
佐倉アスリート倶楽部代表
小出義雄 氏

怒る指導者は指導力の無さを公言しているようなもの。暴力で人は育たない。選手には夢を持たせて育てる。

部活動指導等の在り方検討委員会

「サッカーを通して見た日本のスポーツ文化」
5月14日（火）
第3回
検討委員会
栃木ユナイテッド代表
セルジオ越後 氏

スポーツは人をつなぐもの。勝つことだけでなく、どうスポーツをいい思い出にさせるかが大切である。

教職員研修センター夏季集中講座

「体罰に頼らないスポーツ指導」
8月9日（金）
教職員・保護者・都民
約200人
東京都教育委員会委員
山口 香 氏

よい指導者は、選手によい気付きを与える。子供が伸びたい方向に、導いてあげることが必要である。